

■有機金属部会創立70周年記念講演会

日時：2021年9月7日(火) 14時30分～17時

開催手段：WEB配信（Zoomウェビナーによるオンライン配信）

【記念講演会】（14:30～17:00）

部会長挨拶（14:30～14:35） 京都大学大学院工学研究科 教授大江 浩一 氏

記念講演 AL-1（14:40～15:20）

「日本の有機金属化学力（Power of Organometallic Chemistry in Japan）」

名古屋大学 名誉教授 巽 和行 氏

記念講演 AL-2（15:30～16:10）

「『一家に1枚周期表』に見るわが国の科学技術の底力」

公益財団法人豊田理化学研究所 所長 玉尾 皓平 氏

記念講演 AL-3（16:20～17:00）

「有機合成を指向する有機金属化学の進展」

大阪大学 名誉教授 村橋 俊一 氏

[参加者：318名]

有機金属部会は、近畿化学協会の前身の近畿化学工業界の専門部会である有機珪素化学部会として1950年11月20日に発足し、1958年に現在の有機金属部会に改称され、2020年に70周年を迎えた。このことを記念した講演会を2020年9月10日に開催する予定で準備を進めていたが、2019年末から世界的規模で拡大したCOVID-19パンデミックの影響により開催を2021年へ延期せざるを得ない状況となった。さらに、2021年初頭から第67回有機金属化学討論会初日の記念講演会開催を目指して準備を進めていたものの、パンデミックが収まる傾向が見られなかったことに加え、世の中の医療環境の逼迫状況を鑑み、有機金属部会常任理事会においてオンライン形式で開催することを決めた。

有機金属化学討論会ならびにそれに関連する行事をWEB配信することは初めての試みであり、記念講演のオンライン配信に際して講演者の巽和行先生、玉尾皓平先生、村橋俊一先生には、講演スライドの準備だけでなく、オンラインアクセスの事前確認やコンピューターの動作確認など、対面での講演では必要がない作業にも多くの時間を割いて頂いた。そのお蔭をもって、オンライン記念講演会はトラブルなく終えることができた。講演者の先生方の有機金属部会への熱い思いが、オンライン配信では起こりがちな通信障害を封じ込め、安定したクリアな配信環境を作り出したのだと推察している。

記念講演会は、大江浩一部会長の開会の挨拶の後、巽和行先生の「日本の有機金属化学力（Power of Organometallic Chemistry in Japan）」と題する講演で開始された。講演では、有機金属部会の前身である有機珪素化学部会発足時の時代背景から現在に至るまでの有機金属部会の歴史と、その時々の有機金属化学分野における重要な発見を紹介された。また、先生の視点に基づいた有機遷移金属錯体化学分野における世界の三大研究学派とその学派の流れに沿った日本人研究者のグルー

ピングは、現在の日本の錯体化学分野の系統を知ることができる貴重な内容であった。続いて、巽先生ご自身が精力的に研究されている金属酵素と有機金属化学に関する研究成果を紹介された。さらに、日本の有機金属化学は卓越した研究者が互いに切磋琢磨しながら魅力ある研究分野を創成することで今日まで続いており、これからも様々な専門家が協力することで日本の有機金属化学力は益々高くなることを話された。

続いて、玉尾皓平先生は「『一家に1枚周期表』に見るわが国の科学技術の底力」と題し、有機金属化学の歴史に関する内容と元素がもつ力を新たに引き出すことでわが国から世界に発信した多くの世の中に変革をもたらせた新材料について話された。有機金属部会の歴史を有機金属化学史における重要な発見と並列で紹介されながら、有機金属化学の黎明期の先生方から現役研究者ならびに学生に至るまで、それぞれの年代に沿ってグルーピングされるなど、独創的な視点に基づいて日本の有機金属化学史を紹介された。また、世の中を一変させる新合成手法や新材料の発見には、元素を上手に活用することの重要性を紹介された。有限な元素を上手に使う「元素活用」と現在の元素資源問題を科学技術で解決する「元素資源」の重要性について、わが国で開発された世の中を大きく変えた新材料を例に紹介された。さらに、将来的に枯渇が危惧される元素資源の利用について、わが国が世界に向けて発信した「元素戦略」の重要性と、この概念を基にして創成されてきたわが国の科学技術の底力を紹介された。

村橋俊一先生からは「有機合成を指向する有機金属化学の進展」と題した講演を頂いた。1960年代に有機合成化学分野で活発に研究されていた内容を概説された後、従来の有機合成化学では達成が困難な反応を開発するために有機金属化学分野が重要な役割を果たしてきたことを、ご自身の研究の流れに沿ってその時々の研究背景や活発に研究されていた分野について解説された。有機金属化学分野の最重要国際会議の一つであるOMCOSが、冷戦時代の1970年代に創設された際のエピソードや、OMCOSを通してわが国の研究者が有機合成化学分野の発展に大きく貢献してきたことを紹介された。加えて、ご自身が開発された遷移金属錯体を用いた触媒的ヘテロ原子導入反応や酵素機能をシミュレーションした多種多様な酸化反応を概説されると共に、それらが契機となり現在でも関連研究が世界的に活発に継続されている例を示しながら、わが国のOMCOS分野の研究が世界の有機化学を牽引して来た流れを解説された。

講演者の先生からは、今後も世界をリードする研究を有機金属部会から発信することの重要性に関してや、次世代を担う研究者に対して熱いメッセージを頂いた。対面での開催が叶わなかったものの、対面での開催時以上に各先生の思いがすべての聴衆に強く伝わったと確信している。熱のこもった講演を受けて、これまで以上に有機金属化学の研究を強力に遂行するという思いを新たに、有機金属部会70周年記念講演会を無事閉会することができた。



記念講演講師の先生のスクリーンショット

左から：巽和行先生、玉尾皓平先生、村橋俊一先生

(文責：慶應義塾大学 垣内史敏)